



INDEX

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| 第6回OFM誓願10年以下の兄弟たちの幕屋の集会：<br>アシジ2026 ..... | 1  |
| 総長、ブラジル<br>「七つの喜びの聖母」管区訪問 .....            | 2  |
| 総長、ブラジル、<br>アシジの聖フランシスコ管区を訪問 .....         | 3  |
| 総本部の予定 .....                               | 3  |
| 総長、<br>アルゼンチンの聖母の被昇天管区を訪問 .....            | 4  |
| 総長、<br>ペルーの諸管区を訪問 .....                    | 5  |
| サン・ジョバンニ「ラテラノ教会」<br>告解司祭団、正規訪問 .....       | 6  |
| Tempo Forte .....                          | 6  |
| 兄弟マッシモの視点 .....                            | 7  |
| Franciscan Bookmark .....                  | 7  |
| 2026年<br>貧しい人のための世界週間の提案 .....             | 8  |
| COTAF 養成期の兄弟たちの巡礼 .....                    | 8  |
| 2026年JPIC国際コース .....                       | 9  |
| クロアチア、<br>聖キュリロスと聖メドウィウス管区の管区会議 .....      | 10 |
| ポーランド、<br>「無原罪の聖母」管区の間管区会議 .....           | 11 |
| ブラジルおよび南米南部諸管区協議会、<br>養成コース .....          | 12 |
| ポーランド、アンナ山で<br>「40代以上の兄弟たち」の養成集会 .....     | 13 |
| ポーランド、聖ヘドウィグ管区、<br>修道院長の集い .....           | 13 |
| 2026年フランシスコ・ライブ、フィレンツェ .....               | 14 |
| Life in the Order .....                    | 16 |

## 第6回小さき兄弟会誓願10年以下の 兄弟たちの幕屋の集会：アシジ2026

2026年7月4～12日

2026年7月4日から12日にかけて、イタリアのアシジにおいて、第6回小さき兄弟会荘厳誓願10年以下の兄弟たちの幕屋の集会が開催される。今回の集会は、アシジの聖フランシスコの帰天800周年の記念という、フランシスカン家族全体にとって特別な意味をもった状況のもとで開かれる。この記念の年は、アシジの貧者の使命に命を与えた精神を新たにし、何世紀にもわたって世界中で兄弟性、奉仕、そして希望を生み出し続けている召命の活力を再発見する機会となる。

この集会には、荘厳誓願を宣立してから10年以下の小さき兄弟会の兄弟たちが、修道会のさまざまな管区・分管区、諸管区協議会から集まる。幕屋の集会は、この記念すべき聖なる年に、国際的兄弟性を具体的に生き、現在の課題を識別し、現代世界におけるフランシスカンの宣教の責務を再活性化するための優れた場となることだろう。

荘厳誓願10年以下の兄弟たちの幕屋の集会の詳細な情報や歴史については、下記のホームページから確認。

[www.ofm.org](http://www.ofm.org)



WWW.OFM.ORG



## Government of the Order

## 総長、ブラジル 「七つの喜びの聖母」管区訪問

兄弟Massimoは3人の兄弟の荘厳誓願を歓迎



WWW.OFM.ORG



2026年4月21日から23日にかけて、フランシスカンの「七つの喜びの聖母」管区は、小さき兄弟会の総長である兄弟Massimo Fusarelliの訪問を歓迎した。今回の訪問には、総理事の兄弟César Kulkampが同行した。一行は4月21日の夜、ブラジル中西部のマットグロッソ・ド・スール州カンポ・グランデに到着した。

総長の臨席は、フランシスカン・ファミリー全体にとって深い意味を持つ瞬間、すなわち「フランシスカン・ユビリー（聖年）」の最中に行われた。この聖年は、アシジの聖フランシスコが残したカリスマを思い起こし、刷新するための恵みの時として祝われているものである。このような文脈において、今回の訪問は全順位との連帯、そして福音を生きる熱意を新たにする具体的な証しとして、より特別な価値を持つものとなった。

4月22日には、交わりと励ましのための重要な時間が持たれた。志願者、養成担当者、有期誓願の兄弟たちとの集い、管区の全兄弟との集会、そして兄弟César Kulkampの主式による感謝の祭儀が行われた。

カンポ・グランデのサオン・フランシスコ修道院の黙想の家で行われた兄弟たちとの集いの中で、総長は、管区でなされている証しと宣教の奉仕に対し感謝を述べた。特に医療分野、先住民への活動、そして社会福祉における働きを強調した。総長はその勧告の中で、宣教と観想が手を取り合うような、観想的かつ兄弟的な生活を育むよ

う兄弟たちを励ました。また、兄弟Massimoは、現代の挑戦や変化を恐れなくというイエス・キリストの招きを想起させ、福音的勧告を忠実に生きること、希望と勇気を持って応えるよう促した。最後に、全順位が一つとなって、管区の司牧および宣教の奉仕に寄り添っていることを強調した。

4月23日には、アシジの聖フランシスコ教会にて荘厳な感謝の祭儀が執り行われ、その中で総長は、兄弟Edson Roberto Andrade、兄弟Maicon Custódio de Jesus da Silva、兄弟Matiel de Oliveira Bernabéの荘厳誓願を受け入れた。

祝祭の後、ドウラドスにある「天使の聖母」修道院のクララ会姉妹たちとの面会が行われ、午後には管区評議会との会議、および兄弟たちが運営するサオン・フランシスコ・ヘルスセンターとサオン・ジュリアン病院への訪問が行われた。

総長と総理事の訪問は、傾聴、同伴、そして親密な交流の特権的な時間であった。修道会が管区の具体的な現実に関わり、兄弟的生活、養成への配慮、そして生活と福音宣教活動の必要な刷新に向けて兄弟たちを勇気づける機会となったのである。

兄弟Edson Roberto Andrade, OFM  
兄弟Aluísio Alves, OFM

## 総長、 アシジの聖フランシスコ管区を訪問 2026年4月19～21日、ブラジル、リオグランデ・ド・スール州



WWW.OFM.ORG

2026年4月19日から21日にかけて、小さき兄弟会の総長である兄弟Massimo Fusarelli, OFMによるブラジル、アシジの聖フランシスコ管区への兄弟的訪問が行われた。総長には、総理事の兄弟César Kulkamp, OFMが同行した。

訪問は4月19日（日）の午前、ポルト・アレグレにあるクララ会サオン・ダミアン修道院への訪問から始まった。修道院では修道女たちとの集いが持たれ、コミュニティと共に感謝の祭儀が祝われた。午後、総長は養成および召命担当の兄弟たちと面会した。この集いの中で、兄弟たちは世俗化が強く進んだ文化を特徴とするブラジル南部地域における、若者や召命に対する活動と宣教の現状や課題について分かち合った。

夕刻、総長は兄弟たちが奉仕する小教区の代表者、フランスカンの社会福祉事業の代表者、在俗

フランスカン会、およびアパレシーダの聖母フランスカン修道女会の会員らとの集いに参加した。兄弟的な雰囲気の中で、それぞれの活動現場で得られた経験や、宣教の最前線におけるフランスカンのカリスマの捉え方について分かち合いがなされた。

その後、総長はアシジの聖フランシスコ管区における「フランスカン・ユビリー」の開始を告げるミサを司式した。この2026年は、管区の基礎を築いた最初のオランダ人宣教師たちの到着から100周年、そしてアシジの聖フランシスコ管区設立50周年を祝う年でもある。ポルト・アレグレの聖フランシスコ小教区で捧げられたミサの最後に、兄弟Massimo Fusarelliは、管区の宣教に関連するすべてのフランスカン拠点を巡回することになる「巡礼のタウ (Pilgrim Tau)」を祝福した。感謝の祭儀の後には小教区のホールで集会が開かれ、



### 総本部の予定



- ☑ 5月4日から8日まで、総本部においてテンポ・フォルテが開催される予定。
- ☑ 総本部共同体は、5月9日に、仲介者マリアの祝日を祝う予定。
- ☑ 総理事会は、5月11日から19日まで、本会の新しい管区長や分管区長と会う予定。

- ☑ 総長の兄弟Massimo Fusarelliは、5月6日に、アジアの荘厳誓願10年以下の兄弟たちとの会合にオンラインで参加する予定。5月10日に、尊者である兄弟Simpliciano della Nativitàの生誕200周年開会のため、メタ・ディ・ソレント（イタリア、ナポリ県）を訪問予定。5月20日と21日には、プーリア州およびモリーゼ州の大天使聖ミカエル管区の祝日のため、モルフエッタ（イタリア、バーリ県）を訪問予定。

共同体全体が参加した。

4月20日、総長は管区の全兄弟と面会した。集会はサンタ・クルス・ド・スールのサオン・ジョアン・バティスタ神学校で行われた。集会の冒頭、サンタ・クルス・ド・スール教区の名誉司教であるMsgr. Aloísio Alberto Dilli, OFMが兄弟たちを歓迎した。続いて、管区長の兄弟Olávio José Dotto, OFMが、管区の歩みにおける宣教の側面と課題について提示した。兄弟Massimoは、2025年10月

に開催された管区会議への返答として、兄弟たちへの書簡を提示した。直後に兄弟たちは、総長が提起した点について考察するために集まった。開かれた対話の雰囲気の中で、再評価の必要性、召命の問題、そして世界中の修道会が直面している様々な現実と課題を考慮しつつ、フランスカンの宣教を継続するための希望と励ましの交換が行われた。この日はミサで締めくくられ、兄弟たちが宣教プログラムを展開しているウルグアイへと「巡礼のタウ」が送り出された。

## 総長、 リオ・デ・ラ・プラタの聖母の被昇天管区を訪問

2026年4月15～18日、アルゼンチン、コルドバ、サン・アントニオ・デ・アレドンド



WWW.OFM.ORG

2026年4月15日から18日にかけて、1612年に創設されたアルゼンチンとパラグアイのフランシスカン「リオ・デ・ラ・プラタの聖母の被昇天」管区は、小さき兄弟会の総長である兄弟Massimo Fursarelli, OFMを喜びのうちに迎えた。到着の瞬間から、総長の存在はフランシスカンのカリスマに特有のスタイル、すなわち、兄弟たちと共に歩み、彼らの物語に耳を傾け、修道院の日常生活を共にするという姿勢に貫かれていた。兄弟たちは、遠い存在としての権威者ではなく、自らの共同体と共に歩む一人の兄弟としての親密さを実感した。今回の訪問には、ラテンアメリカ担当の総理事である兄弟César Kulkamp, OFMが同行し、修道会の統治における責任の共有と宣教における連帯を示した。

コルドバのサン・アントニオ・デ・アレドンドにあるフランシスカン・レジデンスには、管区各地から兄弟たちが集結した。管区長の兄弟Emilio Andrada, OFMをはじめ、南部地区、ブエノスアイレス自治市 (CABA)、サンタフェ中央、コルドバ、

メンドーサ、北東部 (NEA)、コリエンテス、北西部 (NOA)、そしてパラグアイの兄弟たちが一堂に会した。また、南米南部のクララ会姉妹や、コルドバのフランシスカン第三会修道女会も参加した。その形式は、形式張ったプロトコルは最小限に抑えつつ、兄弟的な臨席に満ちた豊かなものであった。歓迎の儀、管区の紹介、感謝の祭儀、対話のための集会、グループワーク、そして個人的な出合いの機会が設けられ、祈りと省察、そして共同の識別が一体となっていた。

今回の訪問には、兄弟的生活を励まし、管区の具体的な現実には耳を傾け、順位内の連帯を強めるという複数の目的があった。総長は次のように述べている。「皆さんと出合い、耳を傾け、私たちのフランスカンとしての生活を共有するために来ました」。

初日、兄弟Massimoは、聖クララの言葉を引用し、自分自身や兄弟姉妹の中に神の現存を見出すことができる「霊的な眼」を通して人生を見るよ



う、全員に呼びかけた。総長のメッセージは明確であった。光は愛と同様に、自分一人に留めておくものではない。それを分かち合うことで、光は増していくのである。修道院とは、信仰が生きられ、伝えられる場所である。翌日、兄弟César Kulkampは、復活した主との出会いから湧き出る自由を再発見するよう招いた。それは自分自身の勇氣に依拠するものではなく、福音に触れた人生の証しに基づくものである。「復活した主を見た者は、主を見ていないかのように生きることができない」のである。

自然に囲まれた家の庭園では、聖フランシスコの帰天800周年の記念行事が行われた。このユビリー之年に、この記念日は共通の確信を再確認させるものとなった。すなわち、フランシスカンのカリスマは過去のものではなく、あらゆる修道院や

奉仕の業の中に根ざしているということである。

集会の結論もそれを裏付けるものであった。修道院とは、宣教を識別し、希望を持って共に歩むことを学ぶ場所である。これは、兄弟Pablo González Pachecoの証しの中に表現されている。

「私は皆さんと出会い、物語を聞くために来ました。そして今、希望に満ちた心でここを去ります。管区には大きな豊かさがあります」。訪問は、総長と管区理事会との会合をもって終了した。そこには明確なメッセージが残された。

「命あるところに、希望がある」

聖母被昇天管区（アルゼンチン・パラグアイ）管区広報局協力コーディネーター：

兄弟Arnol Aquino, OFM

広報担当：Rosana Triunfetti

## 総長、 ペルーの諸管区を訪問 2026年4月11～14日、ペルー、リマ



WWW.OFM.ORG

2026年4月11日から14日にかけて、ペルーのリマにおいて、小さき兄弟会の総長である兄弟Massimo Fusarelli, OFMによる国内2つのフランスカン管区への兄弟的訪問が行われた。対象となったのは、ペルーの「第12使徒」フランシスカン管区、およびペルーの「聖フランシスコ・ソラノ」宣教官区である。

総長には、総理事の兄弟César Kulkamp, OFMが同行し、また両管区の総代理（デレゲート・ジェネラル）である兄弟Mario Wilson Ramos Novoa, OFMも参加した。訪問中、総長は両管区の理事会、生活を支える姉妹たち、養成期の兄弟たちと養成担当者、そして両管区的全兄弟およびフランシスカン・ファミリーの会員らと面会した。

諸集会は兄弟的な雰囲気の中で行われ、ペルーにおけるフランシスカンの現存のあり方について、祈りと省察、そして対話が重ねられた。兄弟Massimoと兄弟Césarの開放的で親密な姿勢は信頼の醸成を助け、国全体における宣教の強化に寄与する重要な成果をもたらした。

訪問は4月11日（土）、リマの聖フランシスコ修道院から始まった。そこでは両管区の会員たちによって総長が温かく迎えられた。続いて、信徒も参加して盛大な開始のミサが執り行われた。

4月12日（日）、総長はリマのサンタ・クララ修道院にて、クララ会およびコンセプション会の修

道女たちと共に感謝の祭儀を司式した。4月13日（月）の午前には、両管区の理事たちと会合を持



ち、午後はリマのリマック地区にあるデスカルスス修道院にて、養成期の兄弟たちおよび養成担当者との兄弟的な集いを共にした。4月14日（火）には、朝の祈りの後に全兄弟との集会が開かれた。午後には、在俗フランシスカン会（OFS）、フランシスカン青年会（JUFRA）、および男女修道者らを含むフランシスカン・ファミリーの会員たちと面会した。

訪問は締めくくりのミサをもって終了し、その中で有期誓願の兄弟たちが誓願を更新した。

## サン・ジョバンニ「ラテラノ教会」 告解司祭団、正規訪問

2026年4月17～19日



WWW.OFM.ORG



2026年4月17日から19日にかけて、サン・ジョバンニ・ラテラノ教会の告解司祭団の修道院正規訪問（カノニカル・ビジテーション）が行われた。訪問者の代表は、総理事である兄弟Konrad Cholewa, OFMが務めた。

ラテラノの共同体は、メキシコ、イタリア、ポーランド、マルタ、フィリピン、コートジボワール、シリアという世界7カ国から集まった8人の兄弟たちで構成されている。訪問の冒頭、兄弟Kon-

radは、告解司祭の兄弟たちの宣教における責任者である、内赦院長Angelo De Donatis枢機卿と面会した。また、ラテラノでの小さき兄弟会の奉仕に協力しているサンタ・マルタ奉献修道女会の共同体との面会も、今回の訪問における特別なひとときとなった。

訪問は、聖フランシスコの「主は私に兄弟を与えてくださった」という精神に基づき、傾聴、同伴、そして兄弟的な分かち合いの雰囲気の中で行われた。相互に耳を傾け合った3日間は、典礼の祈り、兄弟的生活の中心としての感謝の祭儀の挙行、そして告解の奉仕という濃密な時間によって特徴づけられ、訪問会議をもって締めくくられた。

訪問者は、国際性というこの修道院の豊かさを、より深い相互理解を通じて育まれるべき「賜物」とであると強調した。また、兄弟的生活と和解の秘跡は、ラテラノの共同体にとって常に共に呼吸すべき「両肺」とであると指摘した。

告解司祭たちに委託された宣教は、普遍教会における慈しみ、和解、そして奉仕の具体的な証しである。

ラテラノの兄弟たちは、この訪問の時間を一つの恵みとして、素朴さと真実の精神のうちに過ごした。そして、日々の宣教を照らす愛徳において成長するために与えられた示唆を受け入れたのである。

なお、小さき兄弟会は、16世紀の教皇ピウス5世の時代からラテラノ大聖堂において告解司祭としての奉仕を続けている。

### Tempo Forte



The Communiqué of the General Definitory relating to Tempo Forte for March 2026 has been published.

Download PDF: [Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)

## 兄弟マッシモの視点

2026年4月



WWW.OFM.ORG

アマゾン地方やペルーでは、いくつかの文化的タベが、私にとくに強烈な印象を残しました。伝統的舞踊において、色彩、リズム、そして動きが、先住民の文化とヨーロッパの遺産とを驚くほど見事に融合し、いまでは生き生きとしたモザイクのように一体となっていたのです。このような瞬間に参加したことで、私の心は深く打たれました。それは、踊りが単なる民俗芸能ではなく、生きた文化そのものであると理解したからです。



私は、あの瞬間を振り返ったとき、ある一本の細い糸が、ブラジル、ペルー、アルゼンチンを歴訪する今月の旅の全行程を貫いていたことに気づきました。最初は、それが明らかではありませんでした。旅行中に多くの人と出会い、さまざまな場所を訪れ、いろいろな物語を聞くうちに、少しずつ浮かび上がってきたのです。ブラジルでは、ミナス・ジェライス州の鉱山地帯からアマゾン地方、北東部からマトグロッソ、そして南部まで、実に多様な世界を巡り、兄弟たちやクララ会の修道女たち、また多くの在世フランシスカン員たちと出会いました。その後、ペルーやアルゼンチンのコルドバにも行って、多くの人たちと出会い、その声に耳を傾けました。一つの言葉では言い表すことの難しい大陸です。

それでも、この多様性のなかにも、何か一貫したものがあります。

古い修道院に入り、教会のファサードを眺め、民衆の信仰を表現する絵の前で立ち止まったとき、それを感じ取ることができました。先住民の痕跡、フランシスカンの記憶、スペインやポルトガルの遺産といった、歴史のパッチワークです。当初からまったく同じまま残っているものは何もありません。そして、おそらくこれこそ、重要な点です。カリスマは、これらの土地と出会ったとき、その源泉を失うことなく、新たな特徴を帯びたのです。

このことは、人々との出会いのな

かでも察することができました。兄弟性の素朴さにおいて、貧しい人々への寄り添いにおいて、多様な表現法をもった信仰において、それを感じることができました。まるで兄弟たちが、何世紀もかけてさまざまな方言で話すことを学び、開かれた姿勢と苦労の末に、これらの民の一部となったかのようです。

もちろん、そこに困難がなかったわけではありません。一部の地域、とりわけ先住民の間には、隔たりが残っています。時間の感覚も、被造物との関係も、個人よりも「私たち」を優先する姿勢も異なります。西洋の影響が色濃く刻まれる修道生活に近づいていくためには、時間と忍耐、そして繊細さが求められます。先住民出身の兄弟たちの数は少ないです。私たちは、こうした兄弟たちを受け入れることで、文化により深く根ざした、新たな兄弟性と使命の生活を発展させることができます。それは、押し付けることのできない歩みです。

とはいえ、ここからも深い洞察が生まれます。福音は、何もない土地には決して届きません。聖霊が先行して、種を蒔き、準備を整えます。そして、私たちはしばしば、説明することを学ぶよりずっと前に、認識することを学ばなければならないのです。

おそらく、私がもっとも強く感じたのはこの点だったのでしょう。福音宣教とは、まず、何かをもたらすよりも、それが届くようにすることです。

足を止めて、耳を傾け、受け入れることです。また、与えるために来たと考えていた人も、出会いによって変化するのに気づくことです。

いま、私たちはフランシスコの帰天800周年を祝っていますが、『アシジの聖フランシスコ没後800年の特別聖年に与えられる免償に関する教令』にもあるように、「現代は、フランシスコが生きた時代とさほど変わりません」。フランシスコもまた、与える前に受け入れることを苦労の末に学びながら、国境を越えて他者の世界と出会いました。

この大陸は、静かでありながら強い力で、そのことを私たちに思い出させてくれます。

宣教とは、一つのモデルを「輸出する」ことではありません。

宣教は、聖霊が私たちに先立って、あらゆる文化、あらゆる人のなかですでに働いているという信頼のうちに、出会いによって私たち自身を変えていくことなのです。

Franciscan  
Bookmark

Eric Doyle OFM:  
The Place of Christ  
in Teilhard de Chardin  
and John Duns Scotus



Edited with an  
Introduction and Notes  
by Alan B. Sage  
and Brenda Abbott  
Franciscan Publishing



## Franciscan Centenaries

## 2026年世界貧しい人のための週間の提案

## フランシスカン家族の総長たちの書簡



WWW.OFM.ORG

兄弟姉妹の皆さん、

私たちは、アシジの聖フランシスコ帰天800周年にあたって、貧しい人々とあらゆる種類の貧困を中心に据えた企画を提案したいと思います。この企画は、「貧しい人のための世界祈願日」に合わせて2026年11月9日から15日にかけてローマで開催される予定の「貧しい人に対するミッション」から着想を得たものです。



も、貧しい人たちの現実の代弁者となり、単に貧しい人について語るのではなく、その声に耳を傾けることが可能であるとあかしたいと望んでいます。また、「貧しい人に対する優先的選択」は任意の選択肢ではなく、私たちフランシスカンのカリスマとキリスト信者としての存在の本質そのものに属することを教会と社会に対して示す、預言的行為と一緒に実現することができることをあかしたいと願っています。

使徒ペトロの墓を訪れる巡礼者としてローマにやって来たフランシスコは、もっとも困窮している人に自分

の衣服を贈り、心から喜びながら一日中貧しい人たちの間で過ごしました。私たちは、このようなフランシスコの足跡に倣い、現代において

全文を読む：

[Italiano](#) - [English](#) - [Español](#) - [Français](#)  
[Polski](#) - [Português](#) - [日本語](#)

## COTAF 養成期の兄弟たちの巡礼

## フランシスコ帰天800年の特別聖年にあたって



WWW.OFM.ORG



アルプス以北地域フランシスカン諸管区協議会(COTAF)の何人かの若い兄弟たちは、フランシスコ帰天800年の特別聖年にあたって、2026年4月23日から26日にかけて、ハンガリーのセー

チャーニにある修練院に集まった。参加者たちのなかには、オーストリア、スイス、トランシルヴァニア（ルーマニア）、ハンガリーからの志願者、修練者、有期誓願を宣立した兄弟たちと、その養成者たちがいた。また、スロヴァキア管区の若い兄弟たち数名も、養成者たちと一緒にこの巡礼に参加した。

ハンガリーの養成責任者の兄弟Gabriel Szolivaが開会ミサを司式し、聖王イシュトヴァーン管区の管区長の兄弟Erik Urbanが説教した。兄弟Erikは、説教のなかで、フランシスコと同じ道を歩むよう若い兄弟たちを招いた。その道は、時には平坦で、時には困難で埃まみれで、沈黙のうちに進むことも、会話しながら歩くこともある。しかし、その歩みの間、互いの存在を十分に認識することができるのである。

兄弟たちは、ミサのすぐ後で、ハンガリーのマリア巡礼地マートラヴェレベリ・セントクトまでの28キロの巡礼を始めた。道中、祈りの時間、沈黙の黙想、そして分かち合いの時間がもたれた。教皇庁立国際マリアン・アカデミーの兄弟Marco Mendozaは、修道会の創立当初か

ら聖母マリアが母として同伴してくださっていると学生たちに語った。目的地に到着すると、兄弟たちの地域共同体が一行を出迎えた。

巡礼の2日目には、養成・学問総事務局長の兄弟Darko Tepertがミサを司式し、説教のなかで、初期養成は完璧な修道士となるための時間ではなく、主が弱さをあかしへと変えてくださる学びの場であると述べた。

兄弟たちは、帰りの28キロの間、再び祈り、自然を観想する機会を得た。会合は、セーチェーニの小教区の信徒たちとともに祝う主日のミサをもって幕を閉じた。

このイベントは、温かく迎えてくれたハンガリーの元后聖母管区と、この意義深い行事を企画・調整した兄弟Lorand Portik-Lukácsの惜しめない尽力によって実現したものである。

## Animation of the Order



### 2026年JPIC国際コース

2026年5月18～24日、アントニアム



WWW.OFM.ORG

小さき兄弟会の総本部正義と平和・被造物の保全(JPIC)委員会は、ローマにある教皇庁立アントニアム大学と協力し、2026年5月18日から24日にかけて、JPIC年次国際コースを開講する。これは、現代世界におけるフランシスカンの使命を強化するための基本的養成提案である。本コースは、本会およびフランシスカン家族のJPICの新しいアニメーターたちを主な対象としていて、フランシスカンの800周年の最後の二つ、すなわち『被造物の賛歌』800周年とアシジの聖フランシスコの帰天800周年というきわめて重要な記念の文脈のなかに位置づけられている。これら二つの出来事は、聖フランシスコ自身が『被造物の賛歌』に加えた「賛美されますように、私の主よ、姉妹である私たちの肉体の死によって」という一節によって、深く結びついている。「被造物の賛歌」からアシジの聖フランシスコの帰天へ」と題された2026年のJPIC国際コースは、フランシスコの霊性と福音の光のもとで、現代の重要課題に対する新しく深い解釈を提供することを目的としている。

総長は、参加を呼びかける手紙のなかで、これらの800周年を通して「多くの考察が生まれ、それらはいまや私たちの社会生活と私たちの宣教の一部となっています」と強調し、こうした養成的で司牧的歩みをさらに深め続けていくための絶好の機会としてこのコースを紹介している。

#### JPICのための行動の養成

JPIC年次コースは、社会的・環境的正義や平和に関して、分析や行動のさまざまな展望を提供する。それらの展望は、すべての人に向けられたもので、アニメーションの奉仕において、また、そ

れぞれの共同体、管区、地域社会で自分たちに委ねられている具体的責務において、その理論的および実践的内容を応用するのである。本コースは、最新のJPIC国際評議会（アシジ2025）で承認されたガイドラインに沿って、以下の3つの主要な行動指針を中心に展開される。

- ・ 移民や難民のための正義の追求、
- ・ 暴力の絶えない世界における平和の促進、
- ・ そして被造物の破壊に終止符を打つための責務である。

#### 統合的で経験的構造

養成プログラムは、4つの主要な部分で構成される。第1部では、人の移動、武力紛争、そして社会的・環境的危機と結びついた全世界的課題および地域的課題について、最新の視点から考察する。



第2部では、JPICのためのキリスト教的責務の基礎として、イエスの過越と聖フランシスコの帰天を、哲学的、神学的、フランシスカンの視点から読み解く。

第3部では、すでに世界各地でこれらの分野に取り組んでいるフランシスカン共同体の具体的で実践的経験を紹介する。その一環として、アシジのポルチウンクラや聖フランシスコの墓所への訪問も予定されている。これらは、800周年の記念という文脈において、とくに重要な場所となる。最後に、コース開催中は毎日、JPICのアニメーションを通して変革のプロセス、波及効果、影響力を生み出すことを目的とした、シノダリティをキーワードとした参加型の計画ツールが提供される。

フランシスカン家族に開かれた招き

総長は、「とくにこの奉仕を始めたばかりの人たち」に対して、本コースへの参加を積極的に推

奨しており、また、共通の使命から出発して今日福音を生きるという共通の責務を強化する機会として、フランシスカン家族、一般信徒、若者たちにも参加を呼びかけている。

2026年JPIC国際コースでは、英語、イタリア語、スペイン語の同時通訳が行なわれる予定である。

詳細については、総本部JPIC委員会まで：  
[pax@ofm.org](mailto:pax@ofm.org).

プログラムをダウンロード：  
[Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)



## Chapters

### クロアチア、 聖キュリロスと聖メトディウス管区の管区会議

2026年4月20～24日、サモボル



WWW.OFM.ORG



2026年4月20日から24日まで、サモボルの「タボルの祈りの家」で開催された、クロアチアのフランシスカン「聖キリルと聖メトディウス」管区の第43回管区会議が終了した。締めくくりとして、サモボルの聖母被昇

天フランシスカン教会において、総訪問者であり会議議長を務めた兄弟Tomaž Hočevárによる感謝の祭儀が執り行われた聖フランシスコ帰天800周年にあたり、今回の管区会議は「兄弟たちよ、あらためて主に仕え始めよ

う」というスローガンのもとに開催された。

会議議長は、管区の将来のために重要な決定を下した兄弟たちに感謝を述べ、過去を後にし、未来に目を向けなければならないと強調した。「この会議において、あなた方は時代の兆しを認め、兄弟たちの声と神が望まれることに耳を傾けることができた。若い理事を選出したことは、管区の将来と善益のための約束である」と総訪問者は付け加えた。

会議において兄弟たちは、管区の現状、管区内の個々の修道院の活動、および管区に属する「聖ヒエロニモ・ザダル」分管区との協力体制について検討した。また、管区の改善に向けた適切な解決策を提案し、新たな取り組みやより重要な課題について議論した。結論の中で、会

議は特に、福音宣教の分野における共同体全体および各兄弟の使命、そして新たな霊的召命への配慮を強調した。

現在、同管区には161人の兄弟が所属しており、クロアチア国内のほか、セルビア、オーストリア、オーストラリアにある33の修道院や小教区で活動している。1年前に設立され、同管区の管轄下にある「聖ヒエロニモ・ザラ」分管区には、現在35人の高齢の兄弟たちが居住している。

管区会議では、新たな管区長として兄弟Ivica Jagodić、管区副長として兄弟Mario Zubakが選出された。また、管区理事には、兄弟Tomica Hruška、兄弟Petar Cvekan、兄弟Gabrijel Bošnjak、兄弟Vjeran Lazić、兄弟Marko Ćosić、兄弟Vinko Brodovićが選ばれた。

新管区長の兄弟Ivicaは、「大きな変化の時代にあって、私たちは福音に忠実であり続け、兄弟愛、人々への親密さを見、現代の人々に喜びをもって

キリストを宣べ伝えたい」と強調した。

期間中の感謝の祭儀は、前管区長の兄弟Milan Krišto、総視視察者で議長の兄弟Tomaž Hočvar、新管区長の兄弟Ivica Jagodić、新管区副長の兄弟Mario Zubak、およびザグレブの補助司教Mons. Marko Kovačによって司式された。

兄弟Siniša Pucić, OFM

## ポーランド、 「無原罪の聖母」管区の間管区会議

2026年4月13～17日、レジャISK



WWW.OFM.ORG

2026年4月13日から17日にかけて、ポーランドの「聖母の無原罪の御宿り」管区の間管区会議がレジャISKで開催された。この会議には、40人の兄弟たちに加え、助言権を持つ数人のゲスト、および総理事の兄弟Konrad Cholewa, OFMが参加した。

今回の会議は、アシジの聖フランシスコ帰天800周年にちなみ、「A morte in vitam — 死から命へ（ヨハネ5・24）」というスローガンのもとに執り行われ

た。会議の幕開けとなる聖なるミサは、プシェムィシル大司教であるAdam Szal大司教の司式により捧げられた。

続く数日間、兄弟たちは霊的な講話、典礼、そして作業部会に参加し、管区および教会が直面している司牧上の課題と将来の展望について省察を深めた。会議の期間中、次期の管区理事の選出が行われた。選出された兄弟たちは、管区長および管区副長と共に管区行政を構成することになる。選出されたのは以下

の通りである：

兄弟Samuel Portka, OFM、兄弟Lucjan Hozer, OFM、兄弟Zachariusz Rapala, OFM、兄弟Fabian Wikiera, OFM、兄弟Kasjan Sadowski, OFM

また、会議の最終文書、継続養成プログラム、および管区の兄弟たちへの書簡が提示され、会議参加者の承認を得た。中間管区会議は、新しく選出された管区理事たちが宣誓を行う感謝の祭儀をもって閉幕した。



## ブラジルおよび南米南部諸管区協議会、 養成コース

養成者、アニメーター、および修道院長のための第1期コースが終了



WWW.OFM.ORG

2026年4月14日から25日にかけて、第1期ブラジルおよび南米南部諸管区協議会の養成者、アニメーター、および修道院長のためのコースが、ブラジルのペトロポリス（リオデジャネイロ州）で開催された。協議会の養成・学問事務局が主催したこのコースには、アンパロのフランシスカン修道女会からの2人の修道女を含む、17人の修道者が参加した。協議会内のフランシスカン管区のうち、「七つの喜びの聖母」分管区とチリの「至聖三者」管区のみ、養成者を派遣しなかった。

養成プログラムはハイブリッド形式で構成されている。今回の2週間の対面セッションに続き、4月末から8月中旬にかけて毎週オンライン会議が行われ、各テーマをより深く掘り下げる。第2期は8月の最後の2週間に実施される。9月から11月にかけて、参加者は特に関心のあるテーマを深める最終論文の準備指導を受け、11月27日にコースは終了する。

諮問委員会は多様性に富んでおり、小さき兄弟会の兄弟、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の兄弟、その他の男女修道者、そして人間形成の分野で広範な学術的経験と専門知識を持つ多くの信徒が含まれている。参加者と助言者の一部がスペイン語圏であるため、参加者にはスペイン語およびポルトガル語の基礎的な理解が求められている。

対面セッションは段階的に組織された。第1セッションでは、1週間をフランシスカンの献身生活の構成要素の更新と深化に充て、もう1週間を養成者の役割とアイデンティティに充てた。第2セッションの最初の週は、養成所に来る志願者に焦点を当て、最終的には宣教のための養成についての考察へと繋げる予定である。

少なくとも2回

の対面セッションを含めるという決定は、参加者間の交流、親睦、および相互理解を促進することを目的としている。オンライン形式には利点もあるが、対面でのやり取りや直接的な経験の共有に勝るものはない。この考えに基づき、リオデジャネイロのコルコバードのキリスト像への訪問や、無原罪管区の兄弟たちが活動するロシーニャ・ファヴェーラ（貧民街）の「航海安全の聖母」小教区への訪問などの社会活動が企画された。そこで参加者は信徒と対話し、地元のチャペルを訪れ、大都市の貧困コミュニティが直面している日常の課題についての洞察を得た。教室を離れた兄弟的な交流の機会は、対面セッションを通じて他にも計画されている。

最後に、最終プロジェクトの提出をもって、参加者にはペトロポリスのフランシスカン神学研究所からエクステンション・コースの修了証が授与される。この養成を通じて、自らの使命を自覚し、受け取った内容によって啓発され、同時に人間の成長と成熟を促す困難に挑戦する養成者、修道院長、アニメーターが養成されることが期待されている。彼らが識別の道において、同伴する知恵、待つ忍耐、そして自由のうちに養成する勇気を持てるよう願ってやまない。そして、彼らの生活が聖フランシスコの例に倣い、委ねられたすべての人々にとっての「生ける福音」となるように。

兄弟Sandro Roberto da Costa, OFM(ブラジルおよび南米南部諸管区協議会養成・学問事務局長)



## ポーランド、アンナ山で 「40代以上の兄弟たち」の養成集会 北スラブ諸管区協議会(SLAN)養成・学問事務局



WWW.OFM.ORG

2026年4月21日から22日にかけて、アンナ山(Mount Saint Anne)において、北スラブ諸管区協議会(SLAN)の養成・学問事務局の主催による、初めての40代以上の兄弟たちのための養成集会が開催された。この集会には、ポーランドにある5つのフランスカン管区から、40歳から55歳までの修道者が参加した。

この集いの目的は、修道会への帰属意識を新たにし、日々の職務から離れて自らの人生と召命について省察することであった。それは、真理の光と愛の温もりを求める世界の叫びに耳を傾ける時間であるとともに、数年前に神に対して誓った個人的な「はい(フィアット)」という原点に立ち返る時間でもあった。

プログラムの重要な一部であったグループワークでは、アシジの貧者(聖フランシスコ)が自らの人生と召命をどのように理解していたかを再発見する機会が提供された。この省察を通じて、参加者たちは命と召命の賜物に対する神への感謝を深め、フランスカンの霊性を自らの信仰体験に結びつけた。集会は、兄弟としての絆を強め、共

に聖霊に耳を傾けるという性格を帯びていた。また、Roman Solecki氏による講義がプログラムをより豊かなものにした。感謝の祭儀の主司式および集会の進行は兄弟Oskar Maciarczykが務め、彼は説教の中で、共同体生活における対人コミュニケーションの重要性を強調した。



## ポーランド、聖ヘドウィグ管区、 修道院長の集い

2026年4月13~15、日ヴァンピエジツェ



WWW.OFM.ORG

2026年4月13日から15日にかけて、シフィドニツァ教区の「家族の女王聖母」聖地において、ポーランドの小さき兄弟会「聖ヘドウィグ」管区の各修道院の修道院長を対象とした養成集会が開催された。

集会は管区長である兄弟Alard Maliszewski, OFMが主導した。月曜日の夜には、総理事の兄弟Konrad Cholewa, OFMがオンラインで参加し、兄弟的共同体の生活における修道院長の役割について導入講義を行った。短い休憩の後、参加者たちはヴロツワフのパウロ会修道院長である兄弟Tomaz Chmielewski OSPPEと面会した。彼は「電子ポートフォリオの貧しさ」と題した講話の中で、清貧の誓いの理念と献身者の日常生活の現実をどのように調和させるかについて論じた。

翌朝は、それぞれの共同体における聖フランシスコ帰天800周年の記念行事に関する経験を分かち合う時間に充てられた。兄弟たちは、現在のユビリーの年を記念して自らの修道院で実施した、あるいは計画している取り組みを紹介し、同様の活動を促進するよう互いに促し合った。

次のテーマ・ブロックでは、管区の財務および人員状況が扱われた。修道院長の集まりの中で、いくつかの拠点や事業の将来について議論され、それらの現実在即した最適な解決策が模索された。午後は、管区のみならず、個々の修道院や兄弟一人ひとりにおける財務の透明性の問題が中心となった。管区長が自身の提案を提示し、兄弟たちはそれぞれの修道院の状況に照らして意見を述べた。火曜日の最後のセッションでは、絶えず進



化する国家法の規範に照らした、修道財産の管理問題について議論が交わされた。

3日目は、修道共同体の典礼生活に焦点が当てられた。講師として、シフィドニツァ教区の司祭であり、ポーランド司教協議会の典礼および秘跡委員会の顧問、さらにヴロツワフ教皇庁神学大学の学術・教育担当副学長を務める兄弟Dominik Ostrowskiが招かれた。彼は「共同体の成熟の学校としての典礼」と題したセッションを情熱的に行い、司祭や修道者の成熟度と、典礼を祝い生きる姿勢との関連性について語った。さらに、議論を呼びやすい典礼上の問題についても貴重な助言が与えられた。

集会の締めくくりに、兄弟Alardは総括を行い、管区共同体の今後の予定を提示した。

この修道院長の集いは、養成としての側面が強いものの、共に祈る機会でもあった。そのため、兄弟たちは常に聖務日課の祈り、共に捧げる感謝の祭儀、神の慈しみの冠の祈り、そして「光の道 (Via Lucis)」の式に支えられていた。加えて、修道院長としての責任に伴う不安や喜びを分かち合い、日々の職務から一時的に離れて非公式に経験を交換する貴重な機会となった。

なお、この集会は聖ヘドウィグ管区の生涯養成局チームによって準備されたものである。

## 2026年フランシスコ・ライブ、フィレンツェ

若者たちが武器のない平和を訴える



WWW.OFM.ORG

フィレンツェでは、2026年4月17～9日、トスカーナ州のフランシスカン家族が主催する「ミーティング・フランシスコ・ライブ」が開催された。「限界を超えて平和を」というスローガンで、700人以上の若者たちが集まった。聖フランシスコの帰天800周年の枠組みのなかで開催されたこの会合は、人類が自ら決定する場としての現代の限界ある

状況を再解釈することを目的としていた。限界は硬直した境界であるばかりではない。地域教会との交わりのうちに、より平和な未来を願うとき、回心、対話、希望への入り口ともなる。

ヴェッキオ宮殿（フィレンツェ市庁舎）の「五百人の間」で行なわれたフェスティバルの開会式では、小さき兄弟会の兄弟

Matteo Brenaが講演し、800周年を、限界を見つめ、経験し、超えていくよう招く「扉」として提示した。この展望に沿って、フィレンツェ市青少年政策担当参事のLetizia Periniとトスカーナ州のEugenio Giani知事による公式のあいさつが行なわれ、同州の平和の伝統とフランシスカンのインスピレーションとの結びつきが強調された。同じ文

脈で、教皇公邸管理部の説教者であるカプチン会の兄弟Roberto Pasoliniの話は、限界が敗北に過ぎないという考えを退ける助けとなった。一方、グループEugenio in Via Di Gioiaの演奏は美と被造物の保全を表現し、考察と祝祭を結び合わせた。

フィレンツェの町は、2日目も思考と傾聴の「ワークショップ」であり続けた。午前中はLorenzo Baglioniのエネルギッシュな演奏で幕を開けた。Lorenzoは、歌と対話を通して若者たちに同伴しながら、その日のテーマを軽妙ながらも紹介した。プログラムは、ジャーナリズム、文化、社会的考察に関する話でさらに充実したものとなった。また、地政学アナリストのGreta Cristiniや、グロッセート教区の名誉司教でヨハネ・パウロ2世財団副会長のモンシニョールRodolfo Cetoloniの講演は現代の

紛争に対する視野を広げてくれた。さらに、聖地特別分管区の分管区長の兄弟Francesco Ielpoとクォティディアーノ・ナツィオナーレの社長Agnese Piniとの対談も行なわれた。兄弟Ielpoは、戦争と苦しみが無力感を押し付けてくるかのようなこの時代においては、自らの限界を認識することは諦めではなく、より真なる人間性に向けた歩みであると指摘した。「自分が世界の救い主ではないという実感は、私たちがより人間らしくなり、人間的により深みを増す助けとなるのです」。そして、紛争によって傷ついた人々に同伴する者としての具体的経験から、私たちは、不可能なことを行なうのではなく、たった一つの家族やたった一人の人であっても真の平和の種として支えることのできる、保全という単純な行為に忠実であり続けることだと力説した。

一方、フィレンツェ市の中心では、シニョリーア広場、サン・フィレンツェ教会、サンタ・クロッチェ教会に「Ti ascolto」の拠点が設けられた。そこには、兄弟たちや修道女たち、心理学者やカウンセラーがいて、心や精神に傷を抱える人たちを受容する場を提供した。

また、サン・ミニアート・アル・モンテ教会前の階段では、「ロンディネ平和の城砦」、ヨハネ・パウロ2世財団、フィレンツェ大司教区の青少年司牧部門、ジョルジョ・ラ・ピーラ国際学生センターなどの団体が参加、平和の呼びかけが行なわれた。また、戦争で傷ついた土地から来た若者たちの証言を聞くイベントも開かれた。

最後に若者たちは、サンタ・クロッチェのバシリカにおいて、各機関に最終文書を提出した。それは、軍備拡張に反対する姿勢——「『軍備拡張』という言葉がこの大陸を代表する人たちの口から発せられるのを聞くとは、恥ずかしい限りである」——と、「武器をもたずに武装解除を求める」——1221年にスルタンとの対話を求めたアシジのフランシスコの行動から着想を得ている——平和構築の呼びかけである。このマニフェストはまた、不安定な状況に直面する諸都市において尊厳を求めたほか、Sara Funaroフィレンツェ市長に対し、ジョルジョ・ラ・ピーラに倣って、「信者・非信者を問わない、若者たちによる恒久的協議の場」を創設することを提案した。また、Irene Sanesiと兄弟Franco Buonamanoが司会する閉会式では、欧州議会議員Dario Nardellaから、「フランシスコ・ライブ」の代表団を欧州議会に招待したいという、前向きな回答を得た。そして、Gherardo Gambelli大司教が司式し、兄弟Livio Crisciと兄弟Antonio Piccialloが共同司式するミサが行なわれた。

最終メッセージを読む



# LIFE in the Order



## 莊嚴誓願

・4月25日、聖痕の聖フランシスコ管区（イタリア）

兄弟Alberto Ellati

兄弟Gianfranco Rollo



## 帰天された兄弟たち

+4月23日：兄弟Fr. Simeon (Jožef) Mavec、  
聖十字架管区（スロヴェニア）

+4月22日：兄弟Baltazar (Bartłomiej Adam)  
Walkiewicz、  
アシジの聖フランシスコ管区（ポーランド）

+4月22日：兄弟Modest (Zdzisław)  
Wieczorek、  
アシジの聖フランシスコ管区（ポーランド）

+4月16日：兄弟Carolus (Atsushi) Shoji  
（カロロ庄司篤）、日本聖殉教者管区（日本）

+4月16日：兄弟James Villa、  
無原罪の御宿り管区（アメリカ合衆国）

+4月15日：兄弟Diarmaid (John Peter)  
Ó Riain、アイルランド管区

+4月14日：兄弟Carlos Sáez Peretó、  
無原罪の御宿り管区（スペイン）

+4月11日：兄弟Bernward Syukur Nicolas  
(Nicolas M J A Syukur) Dister、

ゴルクムの聖殉教者管区（オランダ）

+4月6日：兄弟Benedikt (Vladimír) Holota  
聖ヴァーツラフ管区（チェコ共和国）

+3月26日：兄弟Raymond Mailhiot、  
聖霊管区（カナダ）

+3月15日：兄弟Biagio Baldino、  
聖アントニオ管区（イタリア）

総事務局からの情報



Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



@ofmorg



@fratrumminorum



@ofm.org



flickr

Curia Generale dei Frati Minori  
Via di S. Maria Mediatrix, 25  
Roma, Italia

**Director:** Br. Byron A. Chamann Anléu OFM

**Translators:** Br. John Luke OFM, Br. Arthur  
Andersen OFM, Br. Rick Martignetti OFM

**OFM**

Ordo Fratrum Minorum  
© 2026 All rights reserved